

住民、企業、専門家と協働した ビオトープの保全・利活用

～木の岡ビオトープにおける
「おにぐるみの学校」の事例紹介～

滋賀県土木交通部流域政策局

河川・港湾室

広部勝己

はじめに

木の岡ビオトープの概要

一級河川大宮川 左岸河口部

奥行き50m以上の植生帯湖岸は北湖
10箇所、南湖2箇所のみ

琵琶湖の南湖に位置する貴重な植生帯湖岸（沈水植物～湿性林）を形成

地形上、遠浅となり、大きな波浪は沖合で砕波されるため良好なビオトープ空間

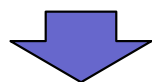


はじめに

木の岡ビオトープの変遷

通称「幽霊ビル」跡地

昭和43年 建設開始
中断 放置 平成4年解体



四半世紀もの間、開発や人の立ち入りから遠ざかることとなった。



背後地の水田地帯
オニグルミやヤナギ類の湿性林



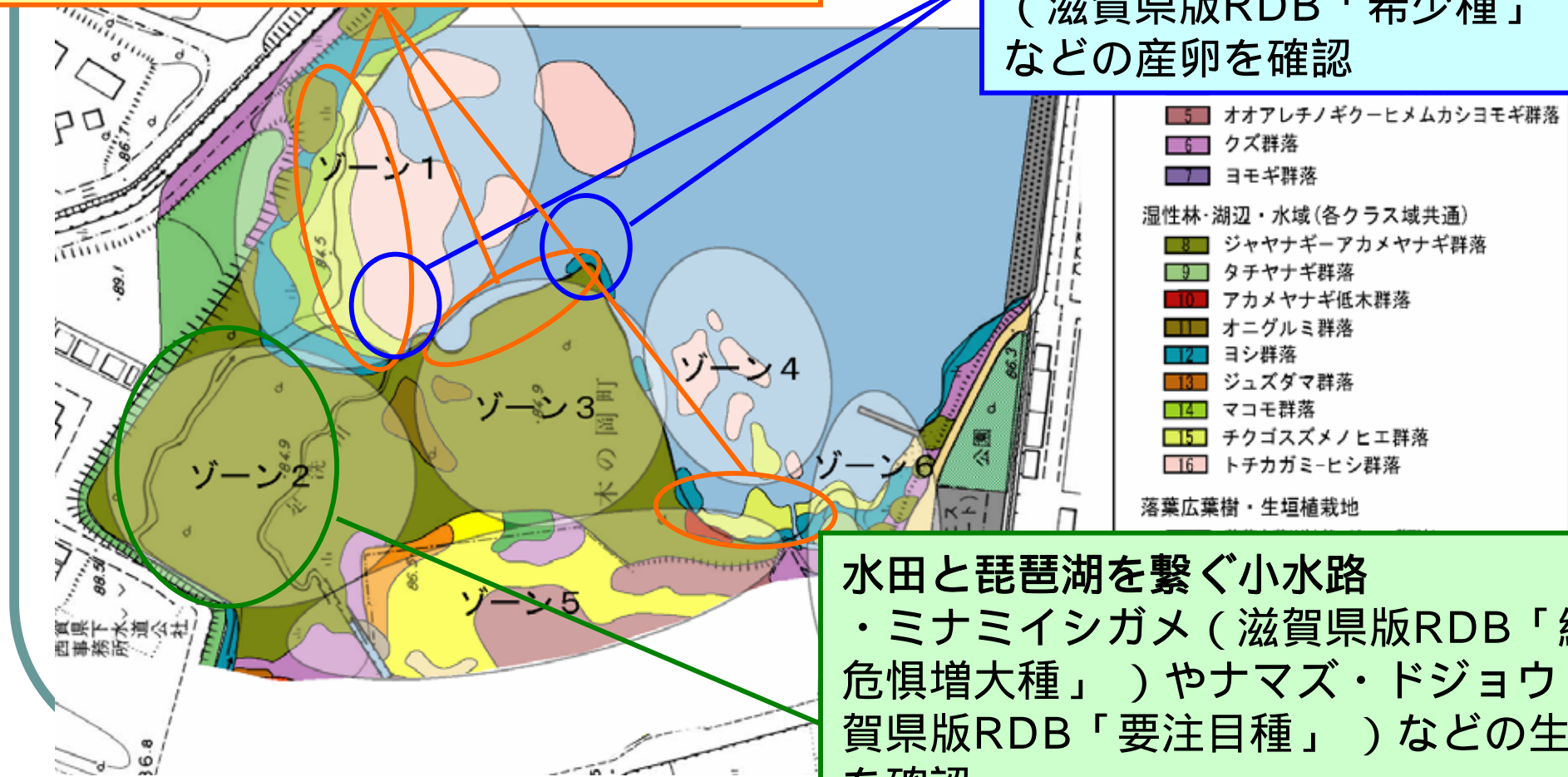
木の岡ビオトープの自然環境

湿性林と連続したヨシ原

・カヤネズミやオオヨシキリ（滋賀県版RDB「希少種」）などの巣を確認

琵琶湖に連続する水際植生

・ゲンゴロウブナやニゴロブナ（滋賀県版RDB「希少種」）などの産卵を確認



水田と琵琶湖を繋ぐ小水路

・ミナミイシガメ（滋賀県版RDB「絶滅危惧増大種」）やナマズ・ドジョウ（滋賀県版RDB「要注目種」）などの生息を確認

木の岡ビオトープの自然環境

オニグルミ

- ・ 本来、湖北の山中に生育するオニグルミが群生している。
- ・ 湖北の山奥から河川や琵琶湖を経て漂着した実から半世紀を経て育った？
- ・ 琵琶湖岸では他にない特異な自然環境が形成されている。



湖岸のヤナギ類

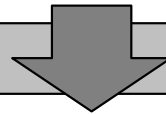
- ・ 木の岡ビオトープ内は、その微妙な地形と琵琶湖の水位変動により湿潤な立地となっている。
- ・ 年間を通して根元が水中にある立地でも生育できる樹木はヤナギ類のみ。
- ・ 湖岸のヤナギ類は、滋賀県版RDB「郷土種」に選定されている。



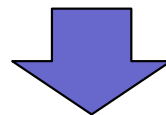
「おにぐるみの学校」設立まで

生物調査結果を踏まえた木の岡ビオトープの評価

木の岡ビオトープは、開発の進む都市環境のなかで残された貴重な自然環境であり、琵琶湖の自然環境を保全することの意義を学び、伝えるうえで重要な場所となっている。



近隣の住民や県民にとって貴重な自然学習・自然体験の場となるビオトープの拠点として位置づける。



検討方針

地域住民、専門家、教育関係者、行政機関がそれぞれ有する情報や知見を持ち寄って、協働して進める。

「おにぐるみの学校」設立まで

大津市木の岡地区ビオトープ保全整備学術委員会

構成：学識経験者

検討 ・生物調査結果を踏まえた木の岡ビオトープの評価
・大津市木の岡地区ビオトープの保全利用に関する基本方針

報告

設立

大津市木の岡地区ビオトープ保全利用推進協議会

構成：地域住民、学識経験者、行政機関

策定 ・大津市木の岡地区ビオトープの保全利用に関する基本方針
・大津市木の岡地区ビオトープの保全利用に関する基本計画
・大津市木の岡地区ビオトープの保全利用に関する行動計画

大津市木の岡地区ビオトープ保全・利用準備委員会

構成：地域住民、専門家、学校、企業、行政機関

・事前説明会、準備委員会、自然観察会の実施

発展

継続・展開

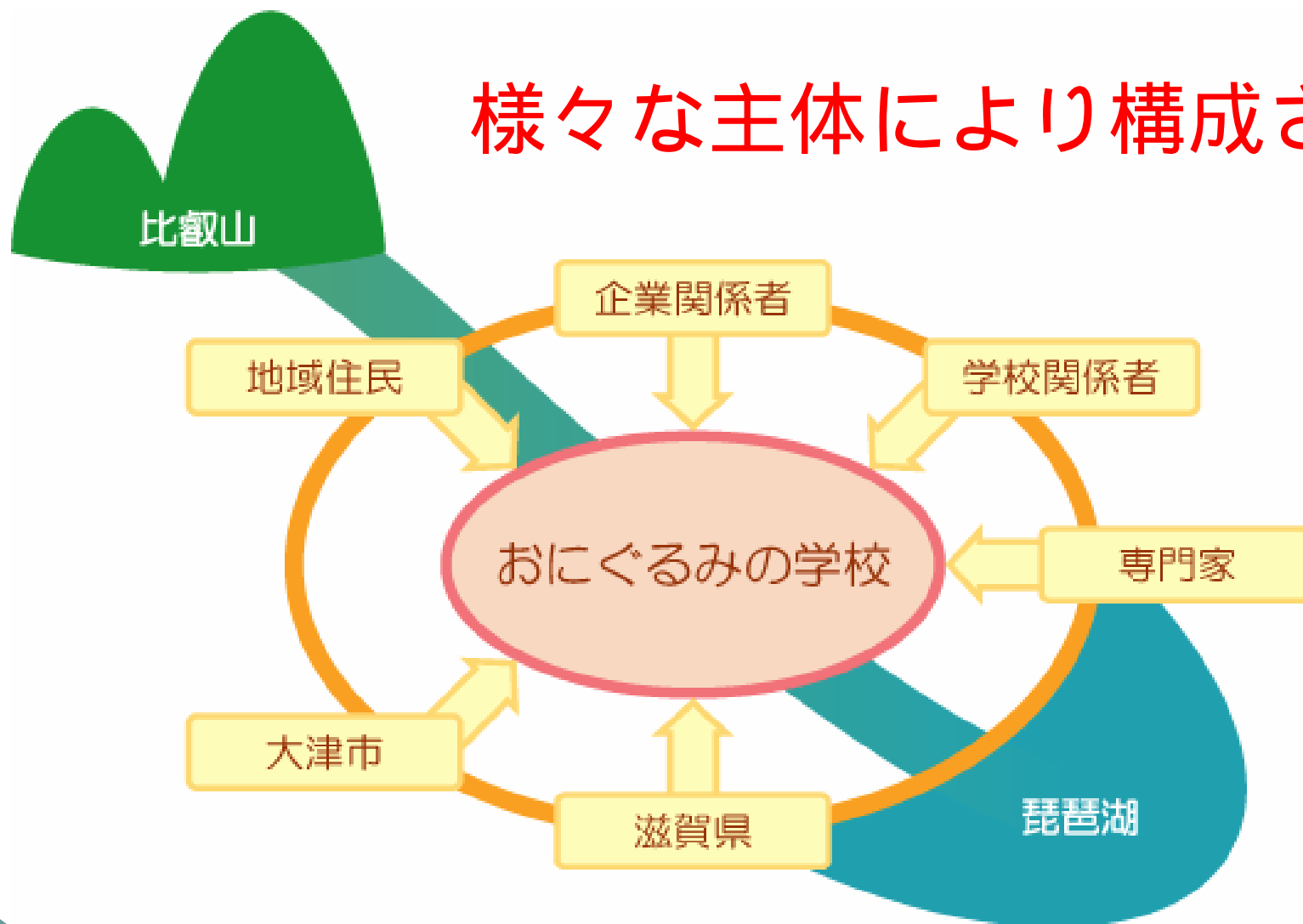
おにぐるみの学校（保全・整備部会、環境学習部会）

構成：地域住民、専門家、学校、企業、行政機関

・運営委員会、保全活動、自然観察会、モニタリングの実施

「おにぐるみの学校」の構成

様々な主体により構成される



木の岡ビオトープの保全利用に関する基本方針

木の岡ビオトープ全体としての自然環境や機能を重視し、ビオトープの保全利用を図る。

各ゾーンの特性を踏まえ、きめ細かくビオトープの保全利用を図る。

自然環境を保全し、環境学習の場として利用できるよう、整備を行う。

子どもも大人もともに体験し、継続的に学んでゆけるような環境学習の場として利用する。

環境学習の一環として、生物に配慮したビオトープ管理を行う。

ビオトープ管理とともに継続的なモニタリングを行う。

地域に根ざした活動をとおして、地域住民と専門家、行政との協働を推進する。

おにぐるみの学校の活動内容

運営調整委員会

構成：地域住民、専門家、企業、学校関係者、行政機関

内容：年次計画の立案

保全活動・自然観察会の計画検討（各部会共通）

運営資金（助成金等）の管理

広報活動など

広報活動

- ・市町の回覧
- ・新聞各社への資料提供
- ・ホームページの作成
- ・ニュースレターの作成・配布



運営調整委員会

おにぐるみの学校の活動内容

保全・整備部会

方針

人の利用と生物の生息・生育空間を分離して保全・利用を図る

整備内容：ビオトープ外に観察広場と管理用通路の整備（滋賀県）
緑陰樹木（ケヤキの植樹）の整備（滋賀県）
ビオトープ内に散策路と順路表示板の整備（協働）
緩衝緑地帯（ドングリ並木）の整備・下準備（協働）
観察広場や散策路の除草・清掃活動、倒木処理（協働）など



順路表示板の整備



除草・清掃活動

おにくるみの学校の活動内容

環境学習部会

活動内容：以下の内容を盛り込んだ自然観察会を実施

さまざまな動植物の観察

ネイチャーゲーム

モニタリング調査（ゲーム形式）

緩衝緑地帯（ドングリ並木）の整備（苗づくり、植樹）

野草の天ぷら試食など



参画主体の特徴と取り組み

地域住民との協働

主体：下阪本学区まちづくり推進協議会

大津市木の岡地区ビオトープ保全・利用準備委員会から参画

木の岡ビオトープに対する考え方

地域住民にとって愛すべき琵琶湖の原風景であり、今後大切にしていきたい場所である。

➡ 運営調整委員や保全・整備部会の部会長・副部会長だけでなく、保全活動や自然観察会への積極的な参加があり、継続的な協働が期待できる。

➡ また、下阪本小学校の校外学習へ発展・展開している。

参画主体の特徴と取り組み

下阪本小学校の校外学習

小学校2年生の校外学習の一環として、木の岡ビオトープを利用した環境学習を実施。内容は一任されており、木の岡ビオトープを知ってもらうこと、体験してもらうことが主目的。

- ➡ 運営調整委員が講師をするなど、おにぐるみの学校のモチベーション向上に繋がる。
- ➡ 今後も、毎年小学2年生（120余名）の校外学習を通して、両親や兄弟姉妹におにぐるみの学校の活動が伝播することが期待される。



下阪本小学校の校外学習

参画主体の特徴と取り組み

企業との協働

主体：イオン西大津店、（株）カネカ

大津市木の岡地区ビオトープ保全・利用準備委員会から参画

イオン西大津店

（株）カネカ



地域の活動に協力的な企業であり、今後も継続した協働が期待できる。

参画主体の特徴と取り組み

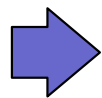
専門家との協働

主体：滋賀自然環境研究会

大津市木の岡地区ビオトープ保全整備学術委員会から参画
そのほか、おにぐるみの学校の設立時にも多くが参画

滋賀自然環境研究会の目的

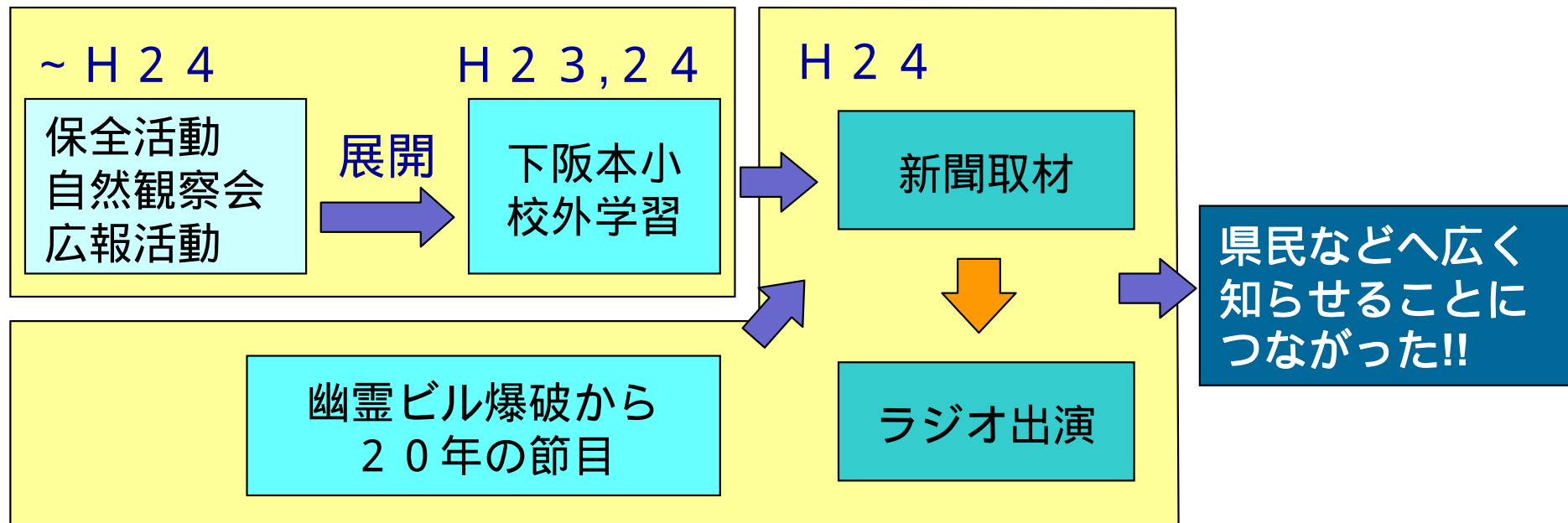
滋賀県の自然環境の研究と会員の資質向上を図る。



研究会員（小中学校、高校や大学の教員、県職員OBやコンサルタント社員など）が、滋賀県生物環境アドバイザーや環境教育などの場で活躍しており、今後も継続的な協力が期待できる。

今後の展望

これまでの経過



今後も、地域住民、専門家、企業などとの協働のもと、おにぐるみの学校として木の岡ビオトープの保全・利活用を目的に、地道ながら継続的な活動に取り組む。